

平成24年度
群馬県図書館協会会報

№. 7 (平25.3.31)

平成24年度の群馬県図書館協会の活動をご報告いたします。

- 1 第1回代議員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 2 第10回群馬県図書館大会報告・・・・・・・・・・P2～3
- 3 群馬県公立図書館等の振興方策研究会報告・・・・・・・・P4
- 4 研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5～10
 - (1) 図書館(室)職員初級研修・・・・・・・・P5
 - (2) 図書館(室)職員実務研修・・・・・・・・P6～8P
 - (3) 図書館(室)職員専門研修・・P9～10
- 5 各加盟団体活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・P11～17
 - (1) 群馬県公共図書館協議会・・・・・・・・P11～14
 - (2) 群馬県高等学校教育研究会図書館部会・・・・P15
 - (3) 小中学校教育研究会学校図書館部会・・P16～17

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）

加盟団体

{	群馬県公共図書館協議会
	群馬県大学図書館協議会
	群馬県高等学校教育研究会図書館部会
	群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会
	群馬県立図書館

平成24年度第1回代議員会報告

平成24年6月12日（金）、県立図書館3階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第1回代議員会が開催されました。

はじめに、阿部副会長（桐生市立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入りました。

議題

1 群馬県図書館協会関係

- (1) 平成23年度群馬県図書館協会事業報告について
- (2) 平成23年度群馬県図書館協会決算について
- (3) 平成23年度群馬県図書館協会会計監査報告について
- (4) 平成24年度群馬県図書館協会事業計画（案）について
- (5) 平成24年度群馬県図書館協会予算（案）について

2 群馬県読書推進運動協議会関係

- (1) 平成23年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について
- (2) 平成23年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について
- (3) 平成23年度会計監査報告について
- (4) 平成24年度群馬県読書推進運動協議会事業計画（案）について
- (5) 平成24年度群馬県読書推進運動協議会予算（案）について

3 監事の指名について

高崎経済大学附属図書館 図書係長 齋藤直子氏

4 第10回群馬県図書館大会について

5 ブロック別による群馬県図書館大会の開催について（提案）

事務局から提出され承認されました。

第 10 回 群馬県図書館大会報告

開かれた図書館～図書館の魅力を伝えるために～

日時：平成24年11月29日（木）10：00～16：30
場所：群馬県立図書館ホール・研修室、放送大学群馬学習センター
日程、内容：

- 1 式典（10：00～10：25）（群馬県立図書館ホール）
 - （1）主催者挨拶 群馬県図書館協会長（代理）
小泉 仁彦（群馬県立図書館長）
 - （2）来賓祝辞 群馬県教育委員会教育長（代理）
品川 豊（群馬県教育委員会教育次長）
 - （3）後援・加盟団体紹介〔略〕
 - （4）表彰式
 - ①優良図書館群馬県教育委員会表彰 高崎市立群馬図書館
 - ②群馬県読み聞かせボランティア顕彰
 - ・わたげの会（前橋市）
 - ・大類公民館図書ボランティア（高崎市）
 - ・おはなし夢夢の会（桐生市）
 - ・まんてん紙芝居の会（伊勢崎市）
 - ・読み聞かせ かやの木（安中市）
 - ③優良読書グループ表彰伝達 粕川読書クラブ（前橋市）
 - ④全国公共図書館協議会表彰伝達 荻原 允隆（桐生市）
－代理受領：関本 金三郎



2 記念講演（10：30～12：00：県立図書館ホール・参加者304名）

演題：「読書はおいしいぞ」

講師：阿刀田高氏（作家／山梨県立図書館長）

概要：参加希望者が多く、3週間も前に募集を締め切り、分科会のみでの募集をするかたちとした。また当日は、県立図書館の職員や分科会検討委員の人たちは、「立ち見」で参加をしていただいた。講演会に参加された方々からは、「ユーモアたっぷりで、とても楽しい講演会であった。」「日本語のすばらしさを再認識できて、とても参考になる講演会だった。」などの感想を頂くことができた。講演タイトルのだおり、「読書のおいしさ」を沢山の方々に伝えることが出来た講演会となった。



3 テーマ別分科会（13：00～16：30）

（1）第1分科会（県立図書館研修室・参加者68名）

「指定管理者制度を考える」

- ・「公立図書館と指定管理者制度」という演題で、日図協図書館政策企画委員会委員長の大橋直人氏に基調講演を頂き、その後、栃木市教育委員会生涯学習課図書館担当主幹の中島多美子氏から「栃木市図書館の運営管理」、太田市立中央図書館館長の大矢公子氏から「太田市立中央図書館の業務委託について」の2つの事例報告をしていただいた。その後、「指定管理者」～民間ならではの取り組み」という演題で、TRC図書館流通センター代表取締役社長の谷一文子氏から状況報告をしていただき、フロアー・トークを行った。



（2）第2分科会（県立図書館研修室ホール・参加者132名）

「読書力アップ！図書館のつかい方・つくり方」

- ・児童文学評論家の赤木かん子氏から、「図書館員のための図書館オリエンテーション」、「かん子さんおすすめの本の紹介」の2つの講演を頂いた。参加者が100名を超える分科会となり、参加者からも「わかりやすいお話しだった。」「分類方法、選書等大変参考になった。」「ブックトーク、たくさんの本の紹介をして頂けて良かった。」等の感想が多かった。大変勉強になり、有意義であったとの感想が多かった。



（3）第3分科会（放送大学群馬学習センター・参加者・51名）

「公立図書館と学校図書館との連携～より機能する図書館を目指して～」

- ・全国学校図書館協議会理事（明星大学教授）の二村健氏から「公立図書館と学校図書館との連携」と題して、基調講演を頂き、その後、学校図書館支援センタースタッフの中村伸子氏から先進事例「袖ヶ浦市学校図書館支援センターの取組～教育課程の展開に寄与する学校図書館づくり～」、群馬県立桐生女子高等学校司書専門員の宮崎好久氏から連携事例「高等学校図書館における相互貸借について」と題してお話しを頂いた。活動事例が聞けて大変参考になったとの感想が多かった。



群馬県公立図書館等の振興方策研究会

1 第1回研究会

平成24年11月2日（金）13:30～15:30 県立図書館3階研修室

参加者：14人

平成23年度第3回研究会で、次年度の研究テーマを「周知」、「現状把握」、「手掛かりとなる情報の提供」としたことを受けて協議を行った結果、今年度の活動を次のとおりとすることとなった。

- (1) 日本図書館協会図書館評価プロジェクトの中間報告、「公立図書館の自己点検評価のためのマニュアル」について県図書館協会加盟団体に向けた勉強会を開催する。

自己点検自己評価は、自館の現状把握につながることで、振興方策に係るチェックリスト作成の手法が学べることで、振興方策のPRにもなることから実施することとなった。

- (2) 年度末に、各館の振興方策に係る取り組み状況の報告会を開催する。

各館で実践している事例を報告することにより、振興方策のPRになるとともに新たな取組の参考事例にもなる。

2 第2回研究会

平成25年2月22日（金）13:30～16:30 県立図書館3階研修室

参加者：27人

内容

講義 「公立図書館の自己点検評価のためのマニュアル」策定の要点と評価手法

講師 西東京市谷戸図書館 館長 中川 恭一 氏

3 第3回研究会

平成25年3月5日（火）13:30～15:30 県立図書館3階研修室

参加者：40人

内容

事例報告①「学校図書館との連携」

藤岡市立図書館 係長 緑埜 智恵子 氏

事例報告②「図書館PR ～郷土資料の収集と紹介を中心に～」

草津町立図書館 係長 中沢 孝之 氏

事例報告③「課題解決・自立支援サービス」

群馬県立図書館 主任 市村 晃一郎 氏

平成24年度図書館（室）職員等初級研修

と き：平成24年4月26日(木) 10:00～16:00

と こ ろ：群馬県立図書館 3階 研修室

参加人数：60名

＜内 容＞

図書館、図書室に新たに採用、異動になった職員（臨時職員も含む）を対象に図書館で直面する様々な問題点や、図書館が抱えている課題、現状などを、県内の図書館員が分かりやすく解説した。

アンケートを実施し53名から回答があり、研修は参考になった（53人）、全体の時間はちょうどいい（48人）。また、それぞれの講義に関しても「参考になった」と回答している。



「情報提供サービスについて」

沼田市 星野 盾 氏

「図書館の機能と役割～図書館用語集の活用」

元笠懸図書館長 青木 貴美子 氏

「県立図書館の課題解決サービスについて」

県立図書館 市村 晃一郎 氏

「カウンターサービスの実際」

草津町図書館 中沢 孝之 氏

＜参加者の声＞

- ・ 図書館本来のあり方を改めて学べ良かった。ただ貸出だけのサービスに流されないよう、日常業務から見直したい。対人面も基本が大事、プラス少しのユーモアも大事と、すぐに使えることを教えてもらい、とても参考になった。
- ・ 図書館の役割について、単に資料を貸出す場ではなく、住民生活を支える情報提供の場であることをよく理解して仕事をしていきたいと思いました。
- ・ 学校図書館はすこし異なった役割を持ちますが、講座を聞いて「図書館はどうあるべきか」を考えるきっかけになりました。生徒が積極的に調べ学習に来られるような図書館にしていけるよう参考にしたいと思います。
- ・ どの講義も分かりやすく勉強になりました。図書館の役割や様々なサービス、今日分かったことによって自分にできるだろうかと少し不安にもなりましたが、勉強しなければならないことや注意すべき点がはっきりしたことは大変、ありがたく思います。学ぶことはたくさんあるので努力してゆきたいです。
- ・ 一つ一つとても勉強になったのですが、一日で行うには多すぎると感じました。研修日も1日増やす等、時間に余裕があったら良かったと思います。

＜研修の担当者から＞

ほとんどの方が「良かった」という回答と熱いご意見を寄せていただいたことも、企画・運営をした者としては嬉しい限りです。

群馬の図書館は様々な課題を抱えています。今回参加したみなさんが図書館について理解を深め、問題解決のための力になっていただければと思います。

平成24年度図書館司書実務研修

県図書館協会と県立図書館共催の実務研修が、平成24年11月16日(金)、12月19日(水)及び平成25年1月31日(木)の3日間にわたり開催された。会場は、1日目及び3日目が県立図書館研修室、2日目は桐生市立図書館403・404会議室を使用して行われた。

参加者は、1日目が56名、2日目は52名、3日目は86名、延べ194名であった。なお、各講義ごとの参加者数は、(1)事例発表28名、(2)事例発表37名、(3)講義33名、(4)講義39名、(5)事例発表37名、(6)講義と図書館見学37名、(7)講義70名、(8)講義59名であった。

第1日目 11月16日(金)

(1) 事例発表

「農業支援サービスについて」

講師：渡会 充訓（小山市立中央図書館）

小山市ならではのビジネス支援として取り組んでいる農業支援サービスについての事例発表が行われた。地域の情報拠点として関係機関とのネットワークを活用しながら就農希望者への情報提供を積極的に行っている様子が具体的な事例を交えて紹介された。図書館は何かを始めたいと思っている人にとって、身近で気軽に相談できる場として役立つという講師の話が興味深かったとの声が寄せられた。



「農業支援サービスについて」



「身近なものを使った図書館の話題づくり」

(2) 事例発表

「身近なものを使った図書館の話題づくり」

講師：内野 文夫（寄居町立図書館）

寄居町立図書館で行われている利用者サービスについて、具体的な取り組みを紹介する事例発表となった。職員がデザインしたキャラクターを案内表示やオリジナルグッズに使用したりするなど、なるべく予算をかけない工夫に対して積極的に質疑が行われ、自館に戻って参考したい等の声があった。

(3) 講義

「群馬県関係の歴史公文書の利用方法」

講師：中網 栄美子（国立公文書館アジア歴史資料センター）

アジア歴史資料センターの設立経緯・データベースの成り立ちから、ホームページを使用した資料の検索・画像利用の方法の説明が、具体的かつ詳細に行われた。受講者からは、同センターの存在を初めて知ったが、レファレ

ンス等で活用したいという感想が寄せられた。



「群馬県関係の歴史公文書の利用方法」

第2日目 12月19日(水)

(4) 講義

「ヤングアダルトサービスの秘訣」

講師：井上 靖代（獨協大学経済学部経営学科）

ヤングアダルトサービスについて、その目的・対象者のニーズ・排架や展示の工夫等を、海外の事例も交えながらの講義となった。ヤングアダルトサービスの充実はどの図書館にとっても課題となっており、利用者への対応のノウハウ等が参考になったという声があった。



「ヤングアダルトサービスの秘訣」



「雑誌のスポンサー制度について」

(5) 事例発表

「雑誌のスポンサー制度について」

講師：大場 宏美（宇都宮市立中央図書館）

宇都宮市の図書館で取り入れられている雑誌スポンサー制度についての事例発表が行われた。スポンサーの募集・広告の審査・取次書店との連絡調整等、全体の流れが具体的に紹介された。財政難の中で資料費を確保する試みとして先進事例を知ることは参考になるとの感想が寄せられた。

(6) 講義と図書館見学

県内の図書館を知ろう！第1回「桐生市立図書館」

講師：小泉 仁彦（桐生市立図書館）

本研修初めての試みとして、桐生市立図書館の施設見学が行われた。参加者は3班に分かれて職員の方に引率して頂き、館内の排架の状況や野間清治氏の寄贈資料の展示室、貴重な資料を保存している書庫等を見学した。参加

者からは、自館の展示の参考になり大変興味深かった、また図書館見学を実施してほしいといった声があった。



桐生市立図書館の施設見学

第3日目 1月31日(木)

(7) 講義

「精神的に不安定な利用者に対する接遇」

講師：宮川 香織（東京医科大学病院）

精神的に不安定な利用者への対応について、精神科医の立場から事例を交えて講義が行われた。そのような利用者の背景や接遇の際にはいけないこと等について具体的に事例を挙げて説明があった。また、つきまといや理不尽な要求にどのように対処すればよいかといった質疑が行われるなど、参加者の強い関心が伺えた。



「精神的に不安定な利用者に対する接遇」



「国立国会図書館への複写・貸出・レファレンスの申込み方」

(8) 講義

「国立国会図書館への複写・貸出・レファレンスの申込み方」

講師：木下 路子（国立国会図書館）

平成24年1月に国立国会図書館サーチ（NDL Search）が正式サービスとなったことを受けて、国立国会図書館が提供する図書館向けサービスについて、実際にホームページ上の操作を見ながらの講義となった。相互貸借・文献複写等日頃活用しているサービスの他にも便利な使い方を学ぶことができたので今後の業務に生かしたい等の感想が寄せられた。

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成24年度第1回

テーマ：「図書館資料の修理・保存 (Part II)」

日 時：平成24年9月11日 (火) 13時30分～16時30分

場 所：高崎健康福祉大学 2号館 213 講義室、図書館

参加者：91名 (大学図書館30名、公立図書館49名、高校図書館12名)

講 演：「本は長いともだち：本をなおす・本を残す・本を伝える」

兵庫ナカバヤシ (株) 小谷 英輔氏、西坂 健氏

【概要】1923年 (大正12年) 大阪で製本業を生業とする中林製本所として創業、2013年に創業90周年を迎えるナカバヤシ (株)。図書館ならば、館種を問わず、これまでに、日常業務として、幾度となく雑誌の合冊製本を発注したことがあるのではないのでしょうか。今回の研究会は、テーマを「Part II」としましたが、これは、2008年3月に国立国会図書館書誌部資料保存課から2名の講師を迎え、群馬県立女子大学で60名の参加を得て実施され好評であった研究会の第2弾として企画された研究会であることを意味します。今回は講師として、全国の教育機関、学術機関等からの製本依頼を一手に引き受け、日産3,000冊のまさに「工場」として機能している兵庫ナカバヤシ (株) から2名の修理製本のプロ (職人) に実際の演習指導を中心に講演していただきました。

第1部の講義では、プロジェクターでスクリーンに投影されたレジュメを基に修復の4原則 (原型保存、安全性、可逆性、記録)、製本の綴じの種類、紙の「目」、修理・保存の禁じ手 (粘着テープ、ステープラー、ゼムクリップなど) 等について説明があり、「基本は閲覧 (利用) だが資料を後世に残すこと (保存) の大切さ」も繰り返し強調されていました。

第2部の演習は、参加人数も多いこともあり (実技指導は20人以内が最適との指摘あり)、事前の打ち合わせでは、演習の進め方についても度々変更され、最終的には2人1組で表紙の剥がれた文庫本の本体を糸で綴じ直し表紙を糊付けする作業を行なっていただきました。



(会場：2号館)



(講義風景)



(演習風景)



参加者の意見等

「大変参考になった」「こういう機会はなかなかないので大変興味深かった」「実際の修理の手元を見せていただけて参考になった」等の意見の他に、「もっと実習の時間がほしかった」といった感想も多々あり、参加人数も、講師の言う、20人以内の最適人数をはるかに超え、また、絞め機、電動ドリル、糊・刷毛も1、2組しかなく、行列ができる状況も出来ました。開催回数も年2回と限られていることもあるが、参加人数をせめて40人までに制限する選択肢もあったのでは、と悔やまれる研究会でした。

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

<平成24年度第2回>

テーマ：「件名標目の今日的な意義と課題」

日 時：平成25年3月8日（金）14時00分～16時30分

場 所：群馬大学（荒牧キャンパス）教養教育GC棟 301教室（視聴覚教室）

参加者：23名（大学図書館21名、公共図書館2名）

講 演：「件名標目の今日的な意義と課題 — NDLSH を例として —」

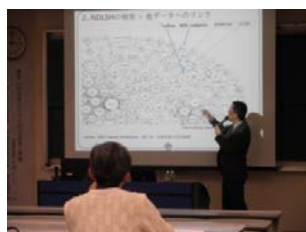
国立国会図書館 収集書誌部収集・書誌調整課 課長補佐 大柴 忠彦 氏

【概要】件名標目の今日的な意義と課題について、国立国会図書館件名標目表(NDLSH)を例に説明があった。まず、セマンティック・ウェブ対応を視野に入れ、NDLSH を Linked Data として提供する国立国会図書館の新しいシステム Web NDL Authorities の紹介があった。次に、NDLSH の維持管理について、特に、標目新設のプロセスについて紹介があり、併せて米国議会図書館件名標目表(LCSH)及び日本図書館協会による基本件名標目表(BSH)との連携(NDLSH との統合)について触れられた。そして、最後に、NDLSH に係る今後の課題と将来展望について説明があった。

これまで、NDLSH が必ずしも他機関の「知」の主題アクセスポイントになっているとは言い難い、との自己評価から、国立国会図書館では、転換点となる2004年の改訂作業がスタートする。改訂方針としては、これまでなかった①シソーラス化：「をも見よ」参照の導入、シソーラス構造(BT, Nt, RT)の入力、②語彙の増大：語彙を積極的に新設、「をも見よ」参照の充実、③汎用性の確保：適切な言葉の採用、NDC9版分類記号の入力、BSH, LCSH との連携、④ルールの明示：スコープノートの実施、 「国立国会図書館件名作業指針」の作成・公開、等により「活用される NDLSH」を目指したとのこと。また、NDLSH の汎用化の課題として、現在、児童書、ムック等を除く和図書のみとした付与対象を拡大する必要性について、また、複雑で利用者にとって難解な細目を結び付けていく事前結合方式の妥当性についても言及された。

<参加者の意見等>

これまで、研究会では、「分類」「目録」、そして今回の「件名標目」と図書館業務のベースとなるテーマを取り上げてきたが、研究会のテーマについては、参加者を考慮して、講演中心の説明解説的な「より専門的なテーマ」と演習中心の実務的な「より一般的なテーマ」とを交互に実施したらどうかとの意見もある。今回のテーマ「件名標目」については、参加者の声にも、「難しいテーマ」「インターネット時代に今更件名か」と言った事前の印象から、「件名標目(NDLSH)を新しい目線で見えていく良い機会になった」「業務に活用できそう」「利用者にどう紹介していくべきか考えていきたい」「実務に大変役立つ情報が得られた」等々の変化が見られ、「より専門的なテーマ」採用の妥当性が裏付けられた。出来れば、他館種とも日程調整し、より多くの参加者にもこうした「件名標目」についての「偏見」を払拭していただけたら良かったのではと悔やまれた。



平成24年度第1回市町村立図書館・公民館図書室図書室運営研究部会

日時 平成25年2月8日（金）

会場 群馬県立図書館研修室

参加人数 50名

研修内容 I 情勢報告改正、告示された

公共図書館の設置及び運営上の望ましい基準 について

講師 前日本図書館協会事務局長 松岡 要氏

1. 望ましい基準

図書館法題7条2

図書館の健全な発達を図るために、図書館設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表する。

2. 主な改正内容

3. 構成

4. 評価したいこと、活用すべきこと

5. 問題点、自治体で補給すべきこと、検討課題等

ii 群馬県公共図書館協議会運営研究会

中小レポートから50年 これからの図書館

（社）日本図書館協会理事長 塩見 昇

中小レポート

ー中小公共図書館運営基準委員会報告書1960年から3年ががりの各地中小図書館の調査と徹底した討論を経て刊行した報告書ーから変化の歴史の説明でした

戦前の図書館は閲覧料を徴収していました。本を借りてもらうという考え方はなく、本をみせてやるという高圧的な考え方でした。日本人の特有の考え方が図書館は調べるところ、参考文献を見させて頂く公共の場所でした。大切な本は自分の手元において置きたいので購入者も多数おりました。戦後無料化しましたが、図書館カードを作成する条件は公共の長に証明してもらい、住所確認にハガキを持参させ、そのハガキが自宅に届いてから図書カードを発行するという時間のかかることでした。

公共図書館の本質的機能は、資料の提供であり、いずれの機能にも優先するとの中小レポートにより、1960年以降市民の図書館の充実がなされるように成り、1965年 日野市立図書館の開設 BM 一台からの出発 1967年 図書館問題研究会：活動方針に、貸出を伸ばそうを提起 1968年公共図書館振興プロジェクト 1970市民の図書館刊行 1971年全国集計で初めて貸出冊数が蔵書冊数を越える 1970年代は公共図書館の変化が最も顕著に見られた時代 1980年代初～行財政改革、公民の役割分担、規制緩和、市場主義の時代へと

図書館の民営化、管理運営委託、職員雇用の劣化 2001年文化省公立図書館の望ましい基準 2003年指定管理者制度導入 2006年文化省協力者会議 これからの図書館像 2012年 住民生活に光を注ぐ交付金 2012年新望ましい基準公示

図書館サービスに求められるものとして参加と連携、協働で出作り出す図書館、図書館事業の組織性の強化の説明があり公立図書館であることの徹底の必要性の強調がありました。

平成24年度第2回市町村図書館・公民館図書室運営研究部会講演

日時 平成25年3月19日（火）

会場 前橋市立図書館

参加人数 30名

図書館のミッション ―図書館の法と政策から―

東京芸術大学 山口源治郎先生



「中小都市における公共図書館の運営（中小レポート）」の発表は、全国の公共図書館に大きな衝撃を与えた。

主に公共図書館のあり方の転換を方向付ける内容だったが、それは、①国民の権利としての図書館 ②資料提供と利用促進 ③中小規模図書館の運営 ④館外奉仕活動重視 ⑤図書費の安定的確保、の5項目に大別できる。

この時期、昭和60年代は、市民が図書館に行き本を借りて読む機会の少ない時代、つまり図書

館側が市民に対し本を貸そうとしない時代であったため、利用者側に立った中小レポートは画期的であり、時代に反するものであったに違いない。

これを受け、日野市立図書館では1965年より市民の図書館としての試験的活動を始めた。それは、①貸出し重視 ②利用者としての子ども、主婦層の掘り起こし ③移動図書館による全地域対象の奉仕体制 ④本館・分館・移動図書館という協力体制の構築 ⑤豊富な資料費の確保、の5項目であり、これにより積極的に図書館側から利用者側への働きかけが可能になり、豊富な蔵書資料を武器に爆発的に図書館利用者を増やしていった。

現在、日野図書館では、地域住民との共同作業により「まちかど写真館」という甲州街道沿いへの写真パネルの展示や、図書館が「日野宿発見隊」という集まりを主催し、地域への情報発信に努めている。

日野図書館のような地域課題に取り組み、積極的に情報発信をしている図書館も各地に多く見られるようになった。

特に近江市では合併以前よりその傾向が顕著であり、環境問題に関する情報の提供と発信や、市民団体・行政関係機関・市民の協働を進めるネットワーク作りの中心的な役割を図書館が果たしている。

今後の新たな図書館像としては、指定者管理制度を中心に考えていかなければならないと思うが、東京千代田区立図書館のように、サービスの多様化と多額の広告費の利用による市場化を図っていくか、小布施町立図書館「まちとしょテラソ」のように、町全体を一つの世間、コミュニティと見なし、図書館をワクワクする仕掛けで演出しながら、「交流と創造を楽しむ文化の拠点、学び・子育て・交流・情報発信の場」というような、共同空間としての図書館化を図っていくか、各図書館の手腕が問われるところである。

地域資料・レファレンス研究部会

日 時：平成24年12月14日（金）13：00～16：00

会 場：群馬県立図書館3階研修室

参加人数：50名

テーマ：「どこの図書館でもできるビジネス支援サービス」

講 師：余野桃子氏（東京都立中央図書館）

研修概要

ビジネス支援サービスに関する具体的な事例を交えてご説明いただいた。実際に他の図書館で行っているビジネス支援の取組を紹介していただいただけでなく、ビジネスレファレンスにおける調査方法および有用な資料・インターネットサイト等も教えていただき、大いに今後の参考となる研修となった。

ビジネス支援サービスと一言でいっても、その内容は多種多様であり、都市部の大規模な図書館だけでなく地方の比較的小さな図書館でも、その地域に沿ったビジネス支援の形があるということは非常に興味深く、費用や人手をほとんど必要としなくてもすぐに始められるものも多く、大変参考になった。また、ビジネスレファレンスでは、県立図書館やその他のインターネット上のデータベース等を用いることで利用者のニーズに応えていくことが出来るので、自分の図書館に「ある」ものだけでなく「ない」ものを知っておくことが重要だということを教えていただいた。

「ビジネス支援」という言葉だけを捉えると敷居の高いものとして敬遠しがちだが、今回の研修で学んだことを参考に、それぞれの図書館でその地域の特性を活かした支援の形を作っていくことが重要であろう。



平成24年度群馬県高等学校教育研究会図書館部会活動報告

1 総会及び講演会 平成24年4月26日(木) 県総合教育センター

- ① 諸報告、計画案、
- ② マニュアル編集委員会報告、司書研修会分散会報告
- ③ 講演会 講師：小久保美子氏（新潟大学教育学部教授）
演題：「読書推進運動の具体的方策～『既知の読み』と『未知の読み』との観点から～」

2 司書研修会

〈第1回〉平成24年7月4日(水) 群馬県立土屋文明記念文学館

分科会研修（9分科会に分かれて研修を行う）

- ① 群馬県高等学校図書館の歴史
- ② C A S A 1 1 0 番
- ③ 「読書週間」活用法
- ④ 授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～
- ⑤ 著作権Q&A
- ⑥ 利用者教育
- ⑦ 分類
- ⑧ 群馬県高等学校図書館チェックリスト
- ⑨ 初心者研修

〈第2回〉平成24年10月12日(金) 県総合教育センター

(1) 分科会研修

①～⑨第1回と同様の内容にて実施。

(2) 分散会研修

①「N I E」

講師：松橋美智子氏（太田市立西中学校教諭）

井田宣昭氏（県立勢多農林高等学校教諭）

②「授業で使いたくなる学校図書館一課題と具体的解決策一」

講師：佐藤 康氏（伊勢崎市立殖蓮中学校教諭）

③「ようこそ先輩！P a r t 2」

講師：柏木彰子、松浦政子、渡辺千春各氏（司書専門員）

3 冬季研究大会並びに講演会 平成25年2月6日(水) 共愛学園前橋国際大学

(1) 読書感想文、感想画表彰式及び講評

(2) 司書研修会分科会報告

(3) 講演会

講師：松森果林氏（ユニバーサルデザインコンサルタント、エッセイスト）

演題：『聞こえる世界から聞こえない世界へ。読書とともに』

(4) 研究協議分散会

- ①「読解力向上をめざす図書部の活動」
- ②「邑楽・館林地区『高校生読書調査』3ヶ年分の集計と分析の報告」
- ③「調べて伝える 多野藤岡地区図書委員研究発表大会報告」

群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

- 1 総会ならびに幹事会 平成24年 5月30日(水) 桐生市立青年の家
 - ・平成23年度事業報告、会計報告、監査報告
 - ・役員改選
 - ・平成24年度事業計画、予算案審議
- 2 研究委員会
 - 【第1回研究委員会】 平成24年 6月21日(木) 桐生市立青年の家
 - ・研究テーマの決定 小学校「学校図書館の活用と読書活動の充実を目指して」
中学校「学校図書館の利用指導の工夫」
 - ・研究実践集録の編集計画について
 - 【第2回研究委員会】 平成25年 1月11日(金) 桐生市立青年の家
 - ・研究実践集録の作成作業
(平成24年度「学校図書館研究実践集録」小学校・中学校編 140部作成)
 - ・今年度の反省と次年度への課題
- 3 第38回全国学校図書館研究大会(米子大会)
 - ・8月8日(水)・9日(木)・10日(金)
米子コンベンションセンター、米子市文化ホール
 - ・大会主題 「学びを広げる ひとをはぐくむ 学校図書館」
～ことばの力を培い、豊かな出会いを創る～
- 4 群馬県学校図書館研究協議会(西毛大会) 平成24年 8月20日(月) 高崎市市民活動センター
 - ・研究主題 「主体的に読書をする心を育む学校図書館の創造」
 - 提案1 「確かな力につながる読書活動」
高崎市立吉井西小学校教諭 山田 美春
 - 提案2 「ものの見方や考え方を深める読書指導の工夫」
高崎市立大類中学校教諭 山田ミチ子
 - 記念講演「読み聞かせのポイント」
講師 中居公民館図書ボランティア 土屋 光代 様
高崎まめっちょの会 小川 美貴 様
高見澤佳子 様
読み聞かせ「かさこじぞう」 萩原 陽子 様
- 5 読書感想文コンクール県審査会
 - 【第1回審査会】 平成24年10月25日(木) 桐生市立青年の家
 - 【第2回審査会】 平成24年11月 9日(金) 桐生市文化会館
 - ・小学校(低・中・高)、中学校の各部より3点、計12点を県代表作品として
「全国コンクール」へ出品
- 6 読書感想画コンクール県審査会
 - 【審査会】 平成25年 1月27日(木) 桐生市立青年の家
 - ・小学校(低・高)、中学校の各部より4点、計12点を県代表作品として
「全国コンクール」へ出品
- 7 部会誌「学校図書館53号」発行
 - ・平成25年 3月21日(木)

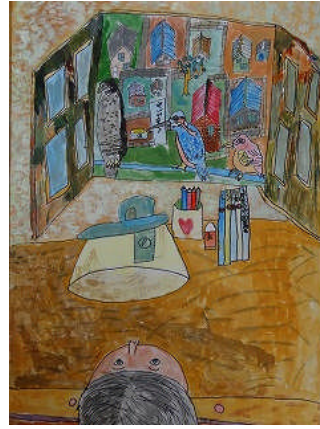
平成24年度 群馬県読書感想画最優秀作品

小学校低学年

【自由図書の部】



【指定図書の部】



小学校高学年

【自由図書の部】



【指定図書の部】

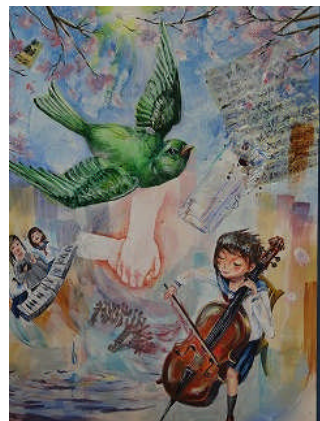


中学校

【自由図書の部】



【指定図書の部】



平成24年度
群馬県図書館協会会報
NO. 7 (平25. 3. 31)

編集：発行 群馬県図書館協会

事務局 前橋市日吉町1-9-1
群馬県立図書館内

TEL 027 (231) 3008
FAX 027 (235) 4196